

ありふれてないモブた
ちによるトータス攻略
RTA

gnovel

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

(RTAものは初めてなので) 初投稿です

このRTAは主人公ちゃんを守るために覚悟ガンギマリになるモブ君の様子をお届けしたいと思います。

(淫夢要素は恐らく) ないです。

目次

Part. 1	キャラクターとガチャ	1
part. 1	裏	8
part. 2	ステータス確認と訓練	12
part. 2	裏	22
part. 3	装備調達とレベリング	31
part. 3	裏	46
part. 4	ベヒモス戦	58

part. 1

キラクリとガチャ

はい、よーいスタート（棒読み）

ありふれたことがないであろうモブとモブによるトータス攻略RTA、はーじまーるよー。

今回は検閲済み年に発売された『ありふれた職業で世界最強』を原作としたゲーム『ありふれたIFの世界』でRTAをしていきたいと思います。

では、まずこのゲームの説明をば、

このゲームはまず『ありふれた職業で世界最強』という小説が元になったゲームで、キラマイクの自由度やボイス、エフェクトそして隠し要素がてんこ盛りなゲームとなっております。

加えてこのゲーム、原作と同じルートを辿る『原作ルート』とオリジナルの主人公を作って自由にトータスを満喫する『放浪ルート』の2つのモードがあり、それぞれの難易度も当然違って来ます。

まずは『原作ルート』

このルートを選択した場合主人公は強制的に魔王こと『南雲 ハジメ』になりトータ

スを蹂躙して神をぶっ殺して、帰還することが目的のルートになっており、こちらは比較的原作知識がある方もそうでない方も攻略しやすい難易度になっています。

今回走るのはこっちはありません。

では次にこのゲームの目玉である『放浪ルート』についてお話していきます。

このルートではまず自分の分身である主人公くんちゃんを作るところから始まりま
す。この際名前は勿論、身長、性別、体重、性格、職業などに加えて他にも様々な項目
を設定する必要があります。

本動画では、名前、身長、性別、性格、職業そして技能だけ決めて後はデフォルトで
行います。

話を戻して

この『放浪ルート』では、基本的には原作と同じルートは殆ど取りません。というのも
もここで設定される主人公はあくまで『南雲 ハジメ』と同じクラスにただだけの存在
として設定されているのです。

とはいえ、完全に原作介入が出来ないわけではありません。キャラとの会話イベント
等を進めたりすると原作に介入することが出来ます。

しかし本動画ではネームドキャラとの会話は極力行いません。それはこれからキャラ
ラ作りをしている最中に説明したいと思えますので、早速始めていきましょう。

では恒例のキャラクリですがこのゲーム、名前をある程度ちゃんと考えないといけないことになっており、みなさんお馴染み「ほも」ではやり直しを要求されます（1敗）

という訳で性別は女の子にします（ノンケ）

これにもちゃん理由があるので後で解説します。

次に名前ですが入力速度と字数を考慮して「保井^{ほい} 萌^{もえ}」にしました。他意はありません。

そして身長はデフォで体重もデフォ、職業は「治療師」にします。これに関しても後々説明します。

技能に関しては1つ選べるのですが『即時回復』一択です。ちなみにですがこのゲーム、技能の量もえげつないことになっておりまして、原作であった技能は勿論のこと追加された技能の数が頭おかしいことになっており、一周で全て集めきるのは至難となっております。

さてキャラクリも終わったことなのでこれからスキップ不可のムービーに入ります。この際に説明するとしましょう。

まず今回のRTAでは、原作においても一切登場することのないモブと共にトータスから帰還することで入手できるトロフィーである「名もなき者と共にありし者」を入手することがゴールとなっております。

というのも『原作ルート』ではなく『放浪ルート』を選択した場合のみ行われることなのですが、ネームドキャラ以外のモブにもステータスが振り分けられます。本RTAではそのモブちゃんくんの二人で帰還することが目標です。

しかし、このモブガチャですが、殆どの場合外れが多いです（無慈悲）

まあ仲間がいるかないかで結構難易度も変わってくるんですが、今回私が狙いたいモブの条件はこちら

『異性』かつ『性格が臆病』、『火傷持ち』、『呪術師』です。

まず解説していくと『異性』であることのメリットとして命令にある程度従ってくれることと依存しやすいところにあります。……依存することはバッドステータスじゃないかって？ええ、本来はそうです。しかし本ルートにおいて仲間のモブ君の依存度が上がることでなんと、精神崩壊をある程度防げるのです。恋は盲目ってやつですね。上がり過ぎたら……？さあ、どうなることでしょう

次に『性格が臆病』に関してですが、これは『性格が臆病』のモブ君だと頻繁に遠距離攻撃を多用してくれる他、確実にとどめを刺しに行ってくれるという性質があるためです。

『火傷持ち』と『呪術師』ですが、実はこのゲームのステータスである『過去』と『職業』にはとある隠し仕様が存在します。

例えば『不良』という『過去』と『狂戦士』という『職業』が組み合わさると初期ステータスの筋力と体力に補正がかかるのです。

それを踏まえて今回狙っている『火傷持ち』と『呪術師』が組み合わさると最初こそ火の呪術の威力は乏しくあまり頻繁に撃てませんが、後に死の危機に瀕したりしてこれらを克服するようになると一気に補正值が掛り、結果として本RTAでの迅速なクリアに繋がります。

……火を畏れて火を扱うって完全にダクソですね本当にありがとうございました。

そろそろ本編が始まるのでここいらで一旦説明を切り上げて残りは後々解説していきますと思います。

▽時計の目覚ましの音で目が覚めた……

▽どうやら朝のようだ

▽学校の準備を済ませて弁当を作り、朝食を食べることにした。

▽ここら辺はだいたい同じですね。

▽朝食を食べ終わったので学校に向かうことにした。

ちなみにこのほもちゃんには家族がないので、会話パートが大分省略されています。この家族がないという部分も後々重要な要素になってくるので要確認です。

〈学校についた。ふと見知った後ろ姿があつたので声を掛けることにした。

おっと、ここでモブ君の登場です。頼むから条件を満たしてくれてくれよ頼むよ
(499敗)

〈相も変わらず肌を露出しないほどの服装で熱くないんだろうかと思う

お!!この条件に当てはまるのは『火傷持ち』か『潔癖症』のどちらかですねぇ!!

〈今日もこいつの為に冷凍食品中心の弁当を作ってきたのだ

やつ、やったあ!!!やりました!!『冷凍食品中心の弁当』で『肌を露出しない』の条件

に当てはまるのは『火傷持ち』しかありません!!やったぜ!!!

……ふう、取り乱しました。あとは『呪術師』であれば完璧ですねぇ!!! (90敗)

ちなみに『冷凍食品中心の弁当』だけでは『火傷持ち』か『猫舌』のどちらかが当てはまります (20敗)

「相も変わらず……僕に作ってきてくれたのですか……物好きのことで……」

〈うるせえ、とつとと貰えと目の前の幼馴染に言った

「はあ、ありがたくもらいます……いつもありがとうございます。」

男のツンデレとか誰得ですかねぇ!?ワタシです (豹変)

そしてそろそろ職業が判明いたします。というのもこのゲーム、一応職業はトータスに行つてからじゃないと判明しないのですが、このゲームの珍しいポイントとしてこの

先の会話に出てくる単語でだいたい決まるというものがあります。

私が狙う単語は『呪詛』ですなえ!!頼む……頼む……もうガチャはこりこりなんだ……!

～周囲の人間からどこか呪詛めいた視線を感じたが、いつものことだと流した。
……まじで?

うそ!?マジすか!!?やったぜえ!!!!!! (音割れ) 私の苦労は報われたんだあーっ!!!! (声にならない叫び)

……ふう、ではガチャに成功したので今日はここまでとして次回からは、トータスに行って詳しい本RTAの説明をしていきたいと思えます。

ご視聴ありがとうございました。サラバダー

part. 1 裏

「弁当だ、食え」

いつも僕に弁当を作ってくれて、見た目のイメージからかけ離れた口調で僕に弁当を押し付けてくる保井さん。僕はいつも思う、本当に僕なんかが受けて良い光なんだろうかと

僕の生まれや過去はお世辞にも良かつたとは言えないものばかりだ。

僕はそもそも親が生まれつきいなかった。僕を作っては、どこかに逃げたそうだった。さらには何で僕を作ったんだ……僕が親を嫌いになるのも時間の問題だった。

さらに僕の体には夥しい数の火傷が出来ている……これは僕が孤児院のいじめっ子から受けた仕打ちだ。それから僕は火傷をした箇所を隠すように長袖など肌をあまり露出しない服装を好むようになった。学校の制服だっていつもそうだった。先生方を説得するには苦労したけど、その苦労の甲斐はあったかもしれない。

そして極めつけは火傷のトラウマからか、熱いものを食べるのを避けるようになった。熱いものを食べるとあの時の苦痛を思い出してしまい、体が受け付けないのだ……暖かいものでさえ最近やっとなれてきたばかりで、味噌汁などは少し冷ましてからな

ら飲めるようになった。

それもこれも保井さんのおかげだった

保井さんとは小学校からの付き合いで、いつも何かと気にかけてくれたのを覚えて
いる

いつも何も言わずに僕の傍に寄り添ってくれていて、僕が熱いものを食べられないこと
を知ると冷凍食品を中心とした弁当を作ってくれたりしてくれたりしたけど、僕は怖くなった
一度聞いてみたことがあった『どうしてやさしくしてくれるの？』って

そしたら

『寂しそうだったから、あとわたしのわがままで』

隠そうともしない本心に僕は思わず笑ってしまった

そこからだった、僕があの中の時の悪夢を見なくなつたのは、心地良い気分になつたのは
僕はあまり人としやべるのは苦手で、時々口当たりが厳しいものになつてしまふけど
それでも変わらず接してくれた保井さんが僕には眩しく見えた

だからこそ僕は、尚更恐ろしくなつた。怖くなつた。何も見返りを要求しない無償の
愛というものが、これまで無償の愛を受けてこなかつた僕には、それは恐怖でしか
なかつたのかもしれない

ある日僕は保井さんから逃げ出してしまったことがあつた。言い様のしれない恐怖

に僕は負けてしまったのだ……

だけど保井さんは変わらず僕に追いついて

『逃げてもいいぞ。ただし私も追いつくがな』

保井さんの境遇も聞かされてきたけど、僕と同じで家族がいなしというのに怖くないのかと誰かから向けられる愛情が怖くないのかと叫びながら問いかけたことがあった。

それでも

『私だつて怖くないわけじゃない。だけどそれ以上にお前が心配だ。』

『どうして……！ どうして僕なんか……！ 僕なんかに構ってくれるんだよ!! 君のような……輝いている人間が……！ どうして僕なんかを!!』

僕が泣きながら嘆くように、縋るように問いかけても保井さんはいつもと変わらない調子で

『ごちやごちやうるさい。黙って私の無償の愛とやらを受けろ』

……僕はこの日太陽を手に入れた。

僕だけの、僕だけを包み込んでくれる光

……僕だけの神様

それから僕は保井さんから殆ど離れなくなつた。一度知ってしまったあの温もりを誰にも渡したくなかつたからだ

休み時間だっていつも近くにいるし、帰り道もいつも一緒、スーパーで買い物をするのだっていつも一緒だった。休日もそうだ。

今自分がつけている眼鏡も保井さんからのプレゼントで貰ったものだ……もう数年も使っている

そしていつも貰ってばかりだから僕からもプレゼントをあげると保井さんはいつも決まって笑顔を見せて、僕に感謝してくれる。

この先も一緒に居てくれると信じて今日も僕は、保井さんからの無償の愛を享受するのだった。

……まさか、あんなことに巻き込まれることになるとは、その時の僕は思いもしなかった

part. 2 ステータス確認と訓練

はーい、よーいスタート（2回目）

part. 2にしてようやくRTAの詳しい説明をするRTAはーじまーるよー

前回はモブ君ガチャに成功したところで終わりました。のでこれからトータスに転移していききたいと思います。

つとその前に、本RTAにおけるその細かな説明をしていききたいと思います。

まずこのルートにおける仕様として、パートナーの火力が低いことが挙げられます。

というのも実は、パートナーは確かに育て切れば普通に攻略する分には問題ないのですが、序盤は兎に角苦戦しまくりになります。何なら中盤も苦戦してレベリングを強制されることが殆どです。

そこで次に重要になってくるのはこのゲームの状態異常の仕様です。

このゲームのみならず数多くのゲームに採用されている状態異常のシステムですが、勿論このゲームにも実装されています。その中で毎ターン状態異常ダメージが発生して尚且つ炎属性の弱点持ちが比較的多いということを考慮すると『火傷』に行きつくのです。

また『火傷』の仕様として一度かかると最低でも5ターンは持続するのに毎ターン最大HPの1/16のダメージを相手に与えます。判り易くすると最大HPが1600なら5ターンの間HPを100削れます。ポケモンみてえだなその数値

更にこのゲームの追加要素として条件を満たすことで手に入る特殊技能というものがあります。

例えば『スライム系統を100回討伐』という条件では『スライム特攻』が手に入り、『料理を50回連続成功させる』では調理した料理の質を上げる『三つ星』等が挙げられます。

本RTAでは、『火傷状態の敵を100回攻撃する』という条件で手に入る『火傷特攻』です。初見でこんなに分かるわけないだろ！いい加減にしろ！！

ぶつちやけこの『火傷特攻』の他にも更に厳しい条件がある奴も有りますが、それはまた今度で……

さてこの『火傷特攻』ですが、『火傷』の敵に与えるダメージが熟練度最大で常時90%とかいう頭おかしい数値となっております。ツヨスギイ!!約2倍ですよ！奥さん!!

……まあ、その技能を手に入れるのも成長させるのも大変なんですけどね、初見さんあと追加効果で火傷にさせる確率が30%増加があります。

ちなみに他の『○○特攻』も大体こんな感じですよ。気になった視聴者さんは買おう!!

(提案)

要するに本RTAではこの『火傷』を駆使して攻略していきたいと思います。
 話が長くなってしまったのでそろそろ本編に行きましょう
 イクゾー デッデッデデデ！ (カーン)

こつから流れるムービーですが、キャンセル(スキップ)だ。するとステータスプレー
 トが配られている所までカットされました。

ではステータスの確認といきましょう。まあモブ君ガチャに成功したのであとはス
 テータスですなえ！

それではご覧ください(○)

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

保井 萌 17歳 女 レベル：1

天職：治癒師

筋力：10

体力：20

耐性：10

敏捷：20

魔力：100

魔耐：10

技能：即時回復・言語理解

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

うーん、体力が心許ないですが……まあ限りなく完璧に近いのでこれで妥協します。

問題はモブ君ですよモブ君！こちらもステータスを主人公ちゃんに見せてくるので
見ましよう

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

火村 蓮 17歳 男 レベル：1

天職：呪術師

筋力：30

体力：30

耐性：20

敏捷：30

魔力：50

魔耐：20

技能：火球・言語理解

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

フアツ!? 割と高水準です!! たまげたなあ……

これならいいタイムが出せますねえ!!

さて一先ず最初の懸念事項だったモブ君ガチャもステータスガチャも乗り切ったので張り切つていきましよう。このゲーム、ガチャしかないのか……

では、これより2週間の猶予があるのでまずはモブ君に火球を使わせましよう（無慈悲）

というのもこのモブ君は確かに理想のモブ君なのですが、『火傷持ち』なのが災いしてかこのまま何もしないでいると一生火球を撃ちません。あのさあ……

しかしとある行動を繰り返していけば、最低でも1日目の【昼】には火球を撃つてくれます。ではこれからそれをお見せしましよう。

〈1日目〉

まずは、お馴染みの『訓練施設』でレベリングをしましょう。

訓練施設にいる『メルド・ロギンス』に話しかけることで訓練を行うことが出来ます。

おつす、お願いしまーす

～ あなたは訓練をする意思を伝えた……

「よし、分かった。しっかりと学んで来い！」

～ 相手が揃ったようだ

～ 訓練が始まる

さて、初めての戦闘ですがこのゲームのバトル形式はドラクエやFFのようなコマンド選択式となっております。

ここでいう『敏捷』の値がドラクエでいうところの『素早さ』となっておりこの値が高ければ高い程先手を取れるようになっております。

『敏捷』の値が現時点で一番早いのはモブ君なのでモブ君のターンです。

しかしモブ君のコマンドには「攻撃」「防御」「技能」「呪術」「道具」「逃走」があるのですが、現時点では「呪術」を選べません（絶望）

とはいえ序盤の序盤ですから基本的に攻撃を選択すれば勝ちになります。

【攻撃】以外は主人公ちゃんも選択しなくていいです。

相手のターンが回ってきました。しかしダメージは小さいので特に問題はありませ
ん。

今度は主人公ちゃんのターンになり、主人公ちゃんが【攻撃】して訓練は終了です……

「ふう……お疲れさまでした」

〽レベルが上がりました！

さて……訓練が終わりました。

最初なのでいきなりレベルアップになります。そしてこの後ですが訓練が終わったのは【昼】なのでまだ訓練が出来ますが、ここで一旦モブ君と会話をします。

〽訓練の後、彼の天職とその技能について話をした。

「ええ……分かっていきます。ですが……どうしても使おうとすると体が震えてしまうのです……火傷の跡が……あの日受けた痛みが蒸し返される感覚に陥るのです」

〽ここで選択肢が出るので迷わず上を選びます

〽安心しろ、その為に私がいるのだと言った

「……ッ!! ああ、あなたはいつもそうだ。僕は……こんな状況になっても過去に縛られているなんて……!」

「……わかりました。これからは僕が嫌いとする火を使っていきたいと思えます……」
「そうでなければ……あなたを守れないのですから……」

〽火村 蓮の【呪術】が解放されました!

はい、これで【呪術】が解放されました。さっきの場面で下の選択肢を選ぶと使えるようになるのが3日目の【夜】とかなるので上を選びました。

それから【昼】ですが、また『訓練施設』で訓練を行います。

やることは至って単純【呪術】の項目を選んでひたすら呪術を使うことです。なのでここからは倍速にします

はい終わりました。結果のほどは

〽レベルが上がりました！

〽火球の熟練度が上がりました！

よしよし順調です。

そして【夕方】ですが、これからやることは『大書庫』で『炎の呪術書』と『治癒師の教科書』を取りに行きます。

そうすることで新たな炎の呪術や呪術の熟練度を上げることができるようになるからです。

また『治癒師の教科書』では主人公ちゃんの回復魔法の熟練度上昇と状態異常回復を覚えることが出来るのでこちらもついで行います。

では早速

〽あなたと彼は『大書庫』に訪れた

「司書に『炎の呪術書』と『治癒師の教科書』の場所を聞いた後部屋に持ち込んで早速読んだ……」

「保井 萌の『即時回復』の技能レベルが2に上がった！」

「火村 蓮が『火剣』を習得しました！」

早速手に入れましたね『火剣』この呪術は所謂エンCHANTタイプで、単純な火力の底上げと何より火傷状態にすることができるとはため漸くスタートラインに立ちました。

そして『夜』になりました。

本来はここで部屋を出ることで原作キャラとのエンカウントによるイベントが発生するのですが、部屋を一步も出ないのでイベントは発生しません。代わりにモブ君と会話してとあるイベントを発生させましょう。

「明日の予定はどうしましょう……？」

「『宝物庫』とやらに行ってみると伝えた

「なるほど……分かりました。……僕も同行して良いですよね？」

「もちろんと言った

「……ありがとうございます。保井さん……やはりあなたは僕の太陽……」

〈親密度が30上がった! (状態: 依存 [重])〉

えげつない勢いで親密度が上がっていったところで今日はここまで!

今回は『宝物庫』で装備を整えてから残りの日にちを一気に倍速していきたいと思いません。

ご視聴ありがとうございます。

part. 2 裏

〔南雲 ハジメ視点〕

僕のクラスにはちよつとした有名人たちがいる。

とは言つてもそこまで何か特別な才能が有つたり、賞を受賞したという訳じゃないんだけど

今も教室の後ろの方にいる保井 萌さんと火村 蓮くんがその有名人という訳だ。

何で有名なのかつて……彼らの距離が近過ぎることで有名になってるんだ。

例えば教室にいる時なんか常に近くににいるし、移動教室の時もまったく同じタイミングで移動するのはまだ序の口。兎に角彼らが離れている所を見たことが無いと言つても過言じゃない。

そして極めつけは、当たり前のようにお弁当を共有していることが彼らをちよつとした有名人たら占めている要因だと思う。そのうえ彼らは自分たちしか見えてないのか昼休みの際の弁当の時なんかまるで熟年夫婦のような雰囲気醸し出すから口の中が甘くなりすぎてコーヒーを買いに行く人も増えたぐらいだ……まあ僕もその一人なんだけど

加えて彼らの容姿も決して悪い物じゃない

黒髪短髪の介護欲が湧いてくると一部の間で密かな人気を集めている保井さんと

顔立ちもスマートで普段のクールな言動と時折保井さんに見せる柔らかな笑顔のギャップにやられる人もいるのだとか……

だけど火村君は年中長袖や手袋等を付けて肌の露出を極力抑えているみたいだけど、噂によると全身に大やけどを負っていてそれを隠すためだとか、刺青があるなどの根も葉もない噂がある。……僕的には多分前者だと思うんだ。

そして彼らの愛の重さを知ることが出来るエピソードとして天之河君との衝突が挙げられるんだ。これは彼らというより火村君の闇が垣間見える内容だったなあ……

「火村！保井さんはお前の所有物じゃないんだぞ!!今すぐ解放するんだ!!」

それはある日のこと天之河君がいつも通りくっ付いている火村君達に対して何か思うことがあったのか、保井さんを解放するように言ったんだ。

……だけどそれに対して火村君が見せた答えは

「おいっ！聞いているのガッ!!」

天之河君の胸元を掴んで締め上げる事だった。その時の火村君の目はまさに僕が

知っているヤンデレのそれに見えた。……本当にああいうヤンデレって存在していたんだ……と思っただのも束の間

火村君の口からは

「お前ごとときが保井さんを語るな。反吐が出る」

「な……何を、言ってる「黙れその口を閉じろ」……ッ!!」

そうして天之河君を解放した火村君は何事も無かったかのようにまた席に戻ろうとしたけど、そこに天之河君が

「……ッ!!君の愛は狂っている!!その身勝手な感情で保井さんを縛り付けているんだろ!!!」

「……あ?」

周囲の温度が急激に冷えていく感覚にクラスの皆が陥った。……火村君は完全にキレているみたいだ。

殺意のようなものが天之河君を襲った

「もう一度言ってみろ」

「ヒッ!!」

「落ち着け蓮」

そこに待ったを掛けたのは保井さんだった。

「天之河は私たちのことなど知るすべが無かった。故に先程の発言が出たのだろう」
「……」

「私は気にしてない。だから落ち着け」

保井さんが声を掛けると火村君の表情から落ち着きが見え始め、空気が緩和された。

「火村！お前のそれはもはや狂気だ!!」

天之河君が余計な一言を言ってしまった。けど火村君はただ一言

「失礼な立派な純^{信卿}愛だとも」

「……ッもういい!」

この日以来天之河君は火村君を敵視し始めた。この出来事でクラスに知れ渡ったことは

『火村は保井さんを病的なまでに愛している。そして保井さんはそれを受け入れてい
る』

『だからこそ彼らの恋路を邪魔する事なかれ』

という認識が知れ渡った。……何やら訳アリみたいだからそれ抜きにしてもあれは危険な感じがした。どこまでも堕ちていく底なし沼のような感覚を覚えたのは僕だけじゃなかったはずだ

でも……何だろ？僕もなんだか他人事じゃない気がしてきたような……？

く火村 蓮視点く

いつも通りの日々を送れるかと思っていたが、その平穩はある日突然壊された

僕はいつものように保井さんと昼食を取っていたけど、突然床が光りだして教室を包み込んだ

「ようこそ、トータスへ。勇者様。そして御同胞の皆様。歓迎いたしますぞ。」

「私は、聖教協会にて教皇の地位についておりますイシユタル・ランゴバルドと申す者。以後、よろしくお願い致しますぞ」

気が付くと僕たちは見知らぬ世界に連れ去られていた。目の前で胡散臭い奴が長々と説明しているが、正直僕には知ったことではない

僕たち以外の全員がやる気を見せていたけど僕は内心こいつらを見下していた。その場の空気に流されて凶に乗せられていることに気づいていないからだ。

恐らく保井さんも気づいたみたいだけどあの胡散臭い奴がにやりと嗤った瞬間を見逃さなかった

それからステータスプレートが配られたけど……そこに書かれていた内容に僕は驚愕した

(なぜ……なぜ僕が炎なんかを……!!)

そこには僕が忌み嫌っていた炎を扱う天職【呪術師】が書かれていた

それから一先ず解散して保井さんが訓練をすることを提案してきた

「確かにあいつらに踊らされるのは癪だが、それでも力を手に入れなければならぬ」

「……分かりました。保井さんがそういうなら……」

保井さんの言う通りだった。僕が強くならなければ保井さんを守れないことを認識し、訓練を行った。

……訓練が終わってふと保井さんが僕の天職とその技能について尋ねてきた

「蓮の天職は【呪術師】それも火を扱うモノばかりだが、大丈夫？」

「ええ……分かっています。ですが……どうしても使おうとすると体が震えてしまうのです……火傷の跡が……あの日受けた痛みが蒸し返される感覚に陥るのです」

僕は正直に今の気持ちを暴露した……今思えば、僕はまだここでうじうじしているんだと思ってしまう。

だけど保井さんが

「安心しろ、その為に私がいるのだ」

「私がお前の傷を治す　私がお前を癒す　そのための【治療師】だ」

ああ、ああ!! やっぱり貴女は僕のことを見ていてくれる! 僕のことを分かっている!!

「……ツ!! ああ、あなたはいつもそうだ。僕は……こんな状況になっても過去に縛られているなんて……!」

そうして覚悟を決めた僕はあの忌々しき過去と戦うことを固く誓った

「……わかりました。これからは僕が嫌いとする火を使っていきたいと思えます……」

そして僕にこびりつくこの苦痛を断ち切り、今度こそ僕が保井さんを守り抜く……その為なら僕は

「そうでなければ……あなたを守れないのですから……」

僕はあらゆる障害をすべて焼き払って見せましょう……

そうして僕の中から何かが外れるような感じがした。

それから僕は保井さんと共に訓練に励み、『大書庫』で呪術について学び、力を着実に蓄えていった……

ある夜保井さんから『宝物庫』に行つて装備を整えてみると言われました。

……僕は、自分も同行して良いか聞いてみた。

「もちろんだ、蓮もついてきて」

そう言いながら僕に微笑みを向けてくる保井さん、僕は強くなるためなら最早妥協はしないことを決めているのだ

……もし僕の太陽を汚す愚者がいるのなら、僕はそいつを必ず殺してやる。その為にも僕は自分の内側に巣くう忌々しき記憶を克服しなくては……

かつて天之河に言われたことを思い出した。

『火村！お前のそれはもはや狂気だ!!』

ある意味間違つてなかったかもなと嗤う。まずは最低限天之河を殺せる力を手に入れなくては……

奴の毒牙が保井さんに向けられたらと思うと殺意が湧き溢れてくる。

「大丈夫か？蓮」

ああ、心配させてしまった。保井さんに大丈夫と伝えると保井さんが

「お前がくじけそうになつても私は見捨てない。お前が立ち直るまでずっと隣にいてやる」

……僕は自らの胸の内に決意を抱いた。

僕の中で何かが燃え上がる感覚がしたが不思議とあの苦痛の記憶を思い出すことは

な
か
つ
た。

part. 3 装備調達とレベリング

はーい、よーいスタート(3回目)

前回はモブ君と『宝物庫』に行く約束を取り付けたところで終わりました。では早速行きましょう

【2日目朝】

まずはメニューから『宝物庫』を選びます

∨ あなたと彼は『宝物庫』に行くことにした

「これはこれは、宝物庫にようこそ。何かお探しですかな？」

∨ あなたは装備を整えたいと伝えた

「畏まりました。では早速中へ……」

ここで主人公ちゃんとモブ君用の装備をそれぞれ3つずつ貰うことが出来ます。『武器』と『防具』そして『装飾品』の3つですね

まず主人公ちゃんが選ぶのは、『アスクレピオスの杖』と『慈悲の外套』に『女神の涙』

です

まず『アスクレピオスの杖』です

これは【治癒師】を選択しているキャラなら最初に持つておきたい一品ですね。

この杖の効果は『回復量10パーセントup』に加えて『一定確率で毒・麻痺などを同時に治療できる』といった具合です。

次に『慈悲の外套』です

これは単純に序盤にしては防御力が高いのと『状態異常耐性の付与』があるのですが、唯一の欠点として『攻撃力の減少』が挙げられますが【治癒師】なので殆ど問題ありません。

最後に『女神の涙』ですが

これは『毎ターンHPを割合で回復する』という所謂リジエ効果があります。これも必須ですね。

では次にモブ君の装備を選んでいきましょう

本RTAにおいてモブ君が必要とする装備はこちらっ！

『燃え盛る剣』と『烙印の鎧』そして『呪術師の炎塊』です

順番に解説していきます

まず『燃え盛る剣』ですが、この武器は通常の物理属性に加えて炎属性が付与されている所謂魔法武器になります。よって普通に攻撃してただけでも火傷を付与できます。まさに本RTAの為の武器と言っても過言ではありませんね。

尚この武器の最終強化先である『業火の剣』が普通に強いのでモブ君の武器はこれで決まりっ！

そして『烙印の鎧』

これは防御力こそ先程の『慈悲の外套』よりも低いですがこの鎧の特殊効果として『受けるダメージが15%増加する代わりに炎属性の攻撃力が30%アップ』となっております。よって必然的に死にやすくなるのですがその為の主人公ちゃんなのでモーマンタイです。

最後に『呪術師の炎塊』ですが

これは『呪術の成長率の増加』という育成目的で入手しました。よって今後ある程度成長したらこれは外します（無慈悲）

▽ 装備を選び終えたことを門番に告げた

「とてもお目が高い！素晴らしいですよ！」

▽ あなたと彼は装備を選び終え『宝物庫』を後にした

「これでもっと……あなたを……」

「時間はまだ【朝】だからここから何をしようか

さてここからは最終日まで一気に倍速します。

やることは『訓練』↓『訓練』↓『読書』の繰り返しですので倍速っ！

く倍速中く

では倍速中に今後の方針について説明していききたいと思います。

まず私が想定しているのが『奈落に落ちずにトータス攻略を進めるルート』です。実は奈落到ちた方がタイムを縮めれるのですが、如何せん『神水』を見つけれないと主人公ちゃんがいっても即死する可能性があるので安定かつそこまでタイムに影響がさほどないこのルートを選びました。

しかし『ベヒモス』と『戦闘』を行ってしまうと一定確率であるかませ犬こと『檜山大介』の巻き添えを喰らうことがあります（怒）

更に言えば主人公ちゃんだけ落下することになっても『依存』状態にあるモブ君も自ら後を追って落下します。まあここら辺はドラクエやFFなどのパーティーの宿命です（諦観）

……まあ気を取り直してステータスは割と理想に近いです。原作キャラとの会話イベントを一回するだけで【朝】から【昼】になってしまいますからね。会話しなかつた分訓練に時間を割けたのでヨシ！

では早速オルクス大迷宮にイクゾー！

【当日】

「よし！ではこれよりオルクス大迷宮に入る。気を引き締めていけよ！」

「今回は20階層まで進むことになるが、いくら俺たちがサポートできるとはいえ、気をつけろよ！」

さて始めましたオルクス大迷宮粉碎……間違えた攻略をしています

パーティーは追加することが出来るのですが、主人公ちゃんとモブ君の2人でいいです。

というのも技能のレベルが上がりにくくなるからね仕方ないね♂

＜ラットマンの群れと遭遇した！

さて戦闘です。とはいってもやることは変わりません。

火剣！殴る！火傷！さらに殴る！ 終わり！閉廷！以上！！

＜＜ 戦闘終了

「お疲れさまでした。」

と、このように序盤でガッツリ鍛えた主人公ちゃんとモブ君ならなんてことはありません。焼死体が増えるだけのことで

ではこの調子があと20階層まで続くので……4倍速します！

＜ 倍速中＞

さて倍速も終わり幾らかレベルも上がりましたが、本番はこれからです

20階層のボス『ロックマウント』の登場です。入って来おっけい

＜＜ ロックマウントの群れと会敵した！

この戦闘で注意するべきポイントは奴らの『岩投げ』ですね。これがなかなかのダメージを叩き出すので気を付けましょう。

クリティカル判定がでたらかなりやばいのでお祈りポイントですねえ！

＜＜ 蓮のターン

はい、ここでは安定の『火剣』から入ります。その後はひたすら殴ってもらって『火傷特攻』のカウントを進めてもらいます。

因みにここに来るまで29回ほど火傷状態の敵を殴れたのであと29回で解放されますね。

この戦いで出来る限界まで稼いでいきたいです。

◇『火剣』の効果で炎攻撃力が上がった！

本来『火剣』などのエンチャント効果は属性がない武器にしか扱えませんが、エンチャントする属性と武器の属性が同じ場合に限ってエンチャントすることが出来ます。これが目当てでこの武器を選びました。

◇『萌のターン』

主人公ちゃんは『守護障壁』と『聖絶』でひたすら守ってもらいます。ダメージを受けたら回復に切り替えていけば問題ないです。

『守護障壁』は地形ダメージや状態異常、ダメージを少し軽減するを軽減する効果で『聖絶』と合わせるとカチカチになります。

◇『聖絶』を使った！

◇『防御力が上がった！』

〽ロックマウントAのターン

さて相手のターンですが、『岩投げ』がこなれば御の字ですね

〽『岩投げ』をしてきた！

糞が、まあクリティカルが出なければいいのですが……

〽連の急所に当たってしまった！

……バタン！（床にたたきつける音）

いや……まだだ、『聖絶』があつたのでそこまで痛手ではありません……

〽ロックマウントBのターン

二回連続で『岩投げ』はやめてくれよ……

〽蓮に殴りかかってきた！

「くっ……！」

〽しかし何とか躲した

よーし！よくやった!!この回避は『敏捷』の項目が高ければ高い程発生しやすいです。ですのであまりキヤラが育っていない序盤ではかなり発動しにくいのですが……まさかやってくれるとはやっぱりモブ君の……回避を……最高やな！

〽 ロックマウントCのターン
さてどうなることやら……

〽 ロックマウントCは力を溜めている……

デレ行動の1つ『力溜め』ですね。言ってもそんなに火力は上がらないのでほぼ誤差です

〽 蓮のターン

しかしここからはこちらのターンです。前のターンで使用した『火剣』のバフとレベルが上がって修得した『薙ぎ払い』で纏めて焼きましょう

〽 蓮はロックマウントたちを薙ぎ払った！

「燃えろ……！」

〽 ロックマウントたちに重大なダメージ！

〽 火が燃え移り、ロックマウントA・B・Cは火傷を負った！

これで火傷を負ったのでカウントを進めていきたいと思います。とはいってもあまり殴れなさそうですが……

これまでのカウントは多くのエンカウントで増えたものなのでどうしても一回の戦闘でそんなに多く殴れないです。

◇◇ 萌のターン

主人公ちゃんのターンですが念のためモブ君を回復させます。まだ『聖絶』の効果が残っているのですね

◇◇ 『即時回復』を蓮に使った！

◇◇ 蓮の体力が完全に回復した！

ここまで来たら後は『薙ぎ払い』で行きます。全体攻撃もちゃんとカウントされるのでこれは嬉しい。

◇◇ ロックマウントAのターン

◇◇ ロックマウントAは火傷に怯んで動けない！

◇◇ ロックマウントAは火傷のダメージを負った！

おっ、火傷の効果の1つである『火傷怯み』が発生しましたか。これは文字通り相手の行動を1ターンだけ止められるのですが、発動する確率がなかなか珍しいのでまさかここで見れるとは思いませんでした。

∨ ロックマウントBのターン

∨ ロックマウントBは力を溜めている……

∨ ロックマウントBは火傷のダメージを負った！

やったぜ。デレ行動2回目はうん、美味しい！火傷のダメージも入ったので僕、満足！

∨ ロックマウントCのターン

さて前のターンで力を溜めていた個体ですが……ここで『岩投げ』をされると流石にきついですがまあ、私ほどの運を持った人物が『岩投げ』を引かれるなんてことは……

∨ 『岩投げ』をしてきた！

ヴオエ!! 『力溜め』からの『岩投げ』はヤメチクリ

「グウ……！」

∨ 蓮が身代わりになった！

ナイス！モブ君!!正直今のを主人公ちゃんが受けていたら結構ヤバかったです……

(小生並感)

一応味方が主人公をかばうにはある程度の親密度が必要ですが、このモブ君は親密度【依存】なんで……大体庇ってくれます。自分が瀕死の際も庇ってくれます。そんなことしなくていいから……（良心）

＜＜蓮のターン

さてこれで終わりです。残念ながら6回しか殴れませんでした。まあ良いでしょう（お寿司フォース）

＜＜蓮はロックマウントたちを薙ぎ払った！

「これで……終わりだ！」

＜＜ロックマウントたちは消滅した

＜＜戦闘終了

「まあ……こんなものでしょう……」

＜＜萌のレベルが上がった！

＜＜蓮のレベルが上がった！

ではロックマウントたちを倒して『ベヒモス』が現れました。ではムービーをスキップして……あれ？またムービー？

……あつ（察し）

となったところで今回はここまで次回は『ベヒモス』との戦闘です（絶望）あーもう滅茶苦茶だよ

ご視聴ありがとうございます。

part. 3 裏

次の日僕と保井さんは、『宝物庫』にいくことにした。

『宝物庫』の中にはゲームでしかみたことが無いような装備品が多数取り揃えてあった。

僕は一つ一つ順番に見て回っているけど、あまりぱつとしないものばかりだった……
確かにこれらの武具は凄い物なんだろうけど僕が使いこなせなければ意味がない

「……これも違う、これも、これも……!?!」

僕の目に留まったのは『宝物庫』の奥に孤立しておかれていたある武器と鎧だった。

まずその立てかけてあったその剣は、まるで今にも周囲に燃え移りそうなほどに燃え盛っている剣だった。その横にはあちこちにマグマのような線が入った燃え盛る鎧があった。

そしてその剣が一際輝いたかと思うと僕は、『宝物庫』ではない、暗い空間にいた……
一体どういうことだ……?」

『……自らの内に消えぬ炎を抱きしめよ』

「誰だ!」

声のした方に僕が振り向くとそこには炎でかたどられた巨人がいた

距離があつても伝わってくるその熱気に僕は思わず後退りする

『汝こそ我が担い手として相応しい』

『わが手を取るならば、己が身さえも焼き尽くす炎をものとし、先の見えぬ暗闇を切り開く覚悟を持つがよい』

「……!?!」

僕は確信する。こいつはあの剣と鎧に宿った意思そのものであると……そしてその答えは既に決まっていた。

「僕は……あの日、自分だけの太陽を、火を見つけた……」

「だけど守られるだけじゃあだめなんだ」

「だからこそ僕は、彼女の為なら……喜んで薪になる」

『宜しい。ならば我を手を取れ!』

そういつたかと思えば僕の視界は開け、気づいたら僕は剣を取り、鎧を身に着けていた。

僕の体に伝わるその熱気はまるで自分自身が炎になったかのような気分させられる。……例えるならまさに『薪』といったところか……

それから最後に僕は、炎のような形をした首飾りを身に着けた。

ちようど僕が選り終わったタイミングで保井さんも選り終わったようだ……その装備から感じられるオーラに僕は暖かい気分にも包まれる心地がした

それから僕たちは来た『オルクス大迷宮』攻略までの期限までにひたすら訓練に取組むことにした。

僕の身にかけた装備は使えば使うほど馴染んでくる感じがした。この様子をみたメルド団長は

「恐らく、その武具は装備した者の成長に合わせて強くなる。つまり成長する武具なんだろう、こんな武具は初めて見た……」

って言っていたのを思い出した。尚更この武具の事が分からなくなってきた。だけど分かることは只一つ

これで保井さんを守ることができるようになること。それだけ分かればいい

そして訓練に励むこと一週間近く、僕と保井さんは最初の時とは比べ物にならないくらいに強くなっていた。

……そして僕はある日悪夢をみた

そこは地獄と形容するにふさわしい場所だった

おそらく巨大な隕石が衝突したのではないかと思わざるを得ないほど周囲が燃え盛っていた。近くには建物らしき残骸が炭になるほど燃えていた。……現地の人達や元々クラスメイトであつた人たちが焼けていく

『……』

そしてその爆心地には、一際異色を放つ人型の存在がいた。

燃え盛る大地に佇むその姿はまさに『魔王』と呼ぶに相応しいだろう

そいつは全身が真っ黒に染まつた鎧か何かで覆われており、その背には不釣り合いなほど大きい真っ赤なマントのような翼が生えていた。そしてそいつの顔を覆う兜にはまるで血の涙を思わせる意匠があり、そいつの傍にはあまりにも巨大な燃え盛る大剣が突き刺さっていた……何かを抱えているように見える

周囲には白髪の青年とその従者だろうか？……彼らも酷い火傷で全身にダメージを負っており、必死に回復しようとしているのが伺える

彼らが何かを叫んでいる……詳しくは聞き取れなかった。だけど悲痛な顔であることは声が聞こえなくても分かる

……そしてその青年がそいつに襲い掛かった。だけど次に聞こえたその言葉とその声は僕を戦慄させた

『大焦熱地獄』

その声はどこか擦れてはいたが、紛れもなく……僕だった。

そしてそいつから放たれた万物を焼き尽くす業火によつて僕が知覚した範囲すべてが焼き尽される……先程の青年も含めた多くの命が悶え、苦しんで逝った

(これが……未来の僕だとしても……!?)

そして気づく……いや気づいてしまった……

そいつが大切そうに抱えているその何かの正体を……

(あ)

それを見た途端僕は夢から醒めた

「……ッ！」

嫌な目覚めだ……まさかあんな悪夢を見ることになるとは……僕は思わず自分の体の異常を確かめた後傍で寝ている保井さんを見る

「……………よかった」

どういふ訳か知らないが、あれは只の悪い夢……そう思い込んだ僕は寝起きでありながら保井さんに抱き着いた。保井さんは何も言わずに抱き返してくれる

(僕は……あんなのにはならない……もつと強くならなくては……！)

それから僕は残りの期間を訓練に注ぎ込んだ。周りの連中が一旦休めだとか死に急ぎ過ぎだとか言ってるが、僕にはそんな余裕はない

あの最悪な未来を、悪夢を覆すほどの力が、保井さんを守り抜ける力が僕は一刻も早く欲しかった。

それから紆余曲折あったが遂に「オルクス大迷宮」の攻略の時がきた

↳ハジメ視点↳

異世界に召喚されたハジメたちだったが、そこに待っていたのは世界を救うという使命であった。しかしハジメはそう語ったイシユタルの怪しさに感じていた。

（うーん……皆なんとも思っていないのかなあ……だけど火村ちゃんと保井さんはイシユタルを怪しんでいるみたい……）

ハジメは火村と保井の二人も自分と同じようにあのイシユタルを疑っていることに気づいた。

彼ら……主に火村の、クラスメイトを見る目は道端のゴミを見るような目であった。

それからハジメたちは晩餐会をすることになったが、メイド服の美女を見て興奮している他の男子たちと違って毛ほども興味を抱かない火村を見て

（相変わらずだなあ……全然興味を示してないや。考えてるとしても保井さんにメイド服が似合うとかそんな所かな？）

図らずもその考えは当たっていた。

それからステータスプレートを配られて自分のステータスが周りと比べて貧弱なところどこにでもいるような天職【錬成師】なことも相まって馬鹿にされていたハジメであった。

それからしばらくしてハジメがいつものように訓練をしに来たら、そこには『宝物庫』から装備を手に入れた火村と保井の姿を目撃したハジメだったが、火村の装備の異常性

と火村の目つきに周囲からも心配する声が上がった。

(……今までに見たことが無い程の剣幕……何があつたんだろう)

そこからの火村の力に対する執念が尋常ではないことを知るのはこれからだった。

ハジメがいつ訓練所を見に来てもいつも火村と保井が訓練を行っており、保井はまだしも火村の殺気じみたその雰囲気訓練相手となつている兵士の人達はまだしも、クラスメイト達は、怯んでしまつている。

その姿はさながら『修羅』と形容すべき姿をしていた。

(もしかして……火村くんがあそこまで自分を追い詰めてるのは、保井さんを守るため……?)

ハジメの考えは当たつていた。今の火村 蓮は只一人の愛する人を守るために力をつけることしか頭にないのだ。

またその執念が感じられるエピソードがあつた。

それはハジメがいつものように『錬成』の練習をしていた所に檜山とその取り巻きがハジメをリンチしていたときだった……

「おこ」

「ああん？誰かと思えば、女の影に隠れている弱虫じゃねえか！」

(ひ、火村くん？)

この日はたまたまハジメがいるエリアで訓練をしようと考えていた蓮が偶然この場に立ち会ったのだ

しかし檜山たちは相も変わらず下種な態度で蓮に近づいてきた。どうやら少し力を付けたぐらいで彼らは調子に乗っているらしい

そして今鍛錬の事しか頭がない蓮は彼らの逆鱗に容易く触れた

「どけ、邪魔だ」

「ああん!?てめえ!!調子乗ってんじゃねえぞ!!『火球』!!」

「火村くん!!」

しかし『火球』は蓮にダメージを与えることはおろか、むしろその炎を取り込んだのだった

「は……………」

「……………僕の邪魔をするなら容赦はしない」

「ガハツ!!……………や、やめろ……………離せ……………」

蓮は檜山の胸元を掴むと……………蓮は容赦なく檜山を地面に顔面から強くたたきつけた

「ガアツ!!!」

「ひ……ヒイツ!!」

「それとも次は……貴様らが俺の訓練相手になってくれるのか……?」

顔面から強く叩きつけられてのたうちまわる檜山を横目に次の標的を狙い定めていた。さらに蓮は睨みつけてくる檜山を蹴り飛ばして壁に打ち付けた

そしてまだえ苦しむ檜山を目の当たりにした他の取り巻きは、蓮の恐ろしい剣幕とその視線によって足が竦みあがり腰を抜かしていた。

「ゆ……許してください……」

「誰に対しての許しだ」

「た……助けてください!」

「なぜ助けを求めろ」

「こ……殺さないでください……!」

「貴様らが僕の邪魔をしなければ殺しはしない」

命乞いともいえる彼らの発言に淡々と答えるその姿にハジメも恐怖していた。蓮はまるで死刑執行人人のように燃え滾る剣を構え始めていた

(い……いくら何でもこれは……!)

「蓮! 落ち着け!!」 「ハジメくん!!」 「これはなんだ!!」

(保井さん!? 白崎さんに天之河くん!?)

この場で唯一蓮を止められるストッパーが到着したことにハジメは安堵した。そして白崎が檜山をすぐさま治したこともあって、蓮も加減していた為大事には至らなかつた

だが

「ヒイツ……!! 助けてくれ…… 助けてくれえ!!」

「落ち着いて! 檜山! もう大丈夫よ!!」

「……」

「お前……お前は何なんだよ!!」

檜山が半狂乱で蓮に叫ぶ。しかし蓮の表情は相も変わらず無表情だった。ハジメが皆に事の顛末を伝えると白崎は納得はしたが、やりすぎだと伝えた。

保井は蓮に対して

「蓮。落ち着け」

「……」

「いいか、確かに檜山が原因なのは間違いないが、下手に動くとその先面倒なことになるぞ」

「……すこし、頭を冷やします……」

保井はこの状況を作った発端が檜山達にあることを察していたため、特段注意するこ

とは無かった。だが蓮の表情から狂気が薄れ正気を取り戻したのをハジメは感じていた。

天之河も蓮に対して何か言おうとしたが、過去のトラウマからか何も言わずにその場を去っていった。

（うーん……う？あれって大丈夫なのかな……う？）

それから何事もなかったかのように訓練を始めた蓮たちを見て、ハジメもあの凶太さを見習おうと思ったのだった。

そして【オルクス大迷宮】の攻略の日がやってきたのだった

part. 4 ベヒモス戦

はい、よいいスタート（4回目）

前回から大分間が空いちやったRTA、はいじまるよー。

今回は前回投稿者のガバにより『ベヒモス』との戦闘から始まります（絶望）

というのも実は『ロックマウント』を倒した後に2回ムービーが流れるのですが、私はロックマウントが終わった直後に1回ムービーをスキップしたのですが、本来ならこの時点で『南雲 ハジメが奈落に落ちた』というメッセージが流れるだけなのですが、スキップした後にまたムービーが流れたので『ベヒモス』と戦うことが確定しました（憤怒）

え？『トラウムソルジャー』と戦って経験値が手に入る筈だから、どの道ムービーはスキップ出来ないだろうって？

実は、今回の【オルクス大迷宮】の攻略で『ベヒモス』や『トラウムソルジャー』と戦わなくても帰還後にはこれまで貯めてきた経験値に加えて『トラウムソルジャー』約3体分の経験値が加算される仕組みになっています。良心的ですね

色々言っていますが、『ベヒモス』戦も言うてイベント戦なので、そこまでの難易度で

は無いのですが、問題はこのイベントが発生したことで本来予定していたルートから解離するルートに進むことになる可能性が出現してしまったことにあります。（絶望）

冗談はよしてくれ（懇願） ルートが壊れる、く

……まあ、なつてしまったのは仕方ありません（切り替え）少々安定性が落ちますが、奈落ルートを通つ切つていきたいと思ひます。『神水』が見つからなければ即リセです

くくベヒモスが立ちはだかつた！

「な……何だこいつは……!？」

「まさか……ベヒモスなのか……」

さて戦闘開始です。ベヒモスと戦うことを知った時は絶望しましたが、ここで出来る事……つまり『火傷特攻』のカウントを進ませてもらいましょう。

因みに前回の分も含めてあと23回火傷状態の敵を殴ればいいので、ベヒモスで稼がせてもらいましょう。

しかしベヒモス戦は、5ターン経過すると強制終了なので、火傷状態にして進められるカウントは最大4つが限界ですなえ！

くくベヒモスのターン

さてベヒモスの攻撃ですが、この時点のベヒモスは基本的に単体攻撃しかしてこないという仕様ですが、気を抜いていると死にかねないので、ほもちゃんには防衛と回復、モブ君はひたすら攻撃してもらいます。なお、ハジメ君に関してはオートで戦ってくれますが、この時にハジメ君をサポートしたり、回復してあげたり、庇ってあげたりすると好感度が上昇して後々アイテムをくれたり、会話イベントが発生してステータスボーナスが付与されるといふメリットがあります。

しかし、庇うとなるとモブ君のカウントが進められないのでやらないですが、ほもちゃんがチーム全体に及ぶバフや回復を持っているので意図せずにハジメ君の好感度を上げる要因になります。

……余談ですが、仮に主人公とモブの好感度が「普通以下」だとハジメ君のハーレム入りという名のNTRルートになってしまいます。私はNTR絶対許さない過激派なのでこのルートには行きませんし行かせません（鉄の意思）

〽ベヒモスは突進してきた！

突進……ほもちゃんに当たらなければ御の字ですなぁ！（軽率なフラグ）

〽萌に当たりそうになったが、蓮が庇った！

「グハア!!」

よくやったモブ君!!マジで!!よくやってくれました!!

しかし今のでモブ君の体力が5割削られてしまったので……これは痛いです……

◇蓮のターン

……さてここからやることは『ロックマウント』と同じく『火剣』で殴って回復しての繰り返しなのでえ………倍速します（恒例）

ではこの間に今後の方針について説明をば

まず、このまま奈落に逝くことがほぼほぼ確定してしまっているので、今後の大まかな流れは、ハジメ君改めハジメニキと共に「オルクス大迷宮」を攻略しつつ「神代魔法」を習得しながらエヒトを灰にしていく感じですね。

因みにこのゲーム、バッドエンドも当然ながらありまして、

例えば、主人公がトータスを含めた全ての世界を滅ぼす「破界者」エンド

主人公との好感度が「依存」以上かつ主人公だけがエヒトにぶつ殺されて終わり、それに絶望した相方のモブが世界を滅ぼす「片割れ亡き比翼の鳥」エンド等があります。まあ、エンディングに関しては基本的にエヒト戦後に決まるので今のところは心配する必要はないです

さてそんなことを話している間にベヒモス戦が強制終了されてムービーが始まりました。ここでスキップをしますが、『神水』がある地点からスタートできるようなお祈りをします。原作ではハジメニキが『鍊成』で穴を掘って手に入れた『神水』ですが、『鍊

成』が出来るキャラが居ない際の救済措置として低確率ですが、主人公たちが目覚める地点に別の『神水』が配置されることがあります。

あ……ありがてえ!! (カイジ並感)

さて……結果はいかほどに……?

▽誰かの妨害を受けて、奈落に落ちたが……どうやら蓮は無事のようだ。

次に出るテキストで……周りに何があるかが決まります……オナシヤス!!

▽辺りを見渡すと……そこにはバスケットボールぐらいの大きさの青白く発光する鉱石が存在していた。

……これマジ?

▽その鉱石は、周りの石壁に同化するように埋まっており下方へ向けて水滴を滴らせている。神秘的で美しい石だ。アクアマリンの青をもっと濃くして発光させた感じが一番しつくりくる表現だろう。

やったぜ。(歓喜)

このテキストは、『神水』がある場所に落ちたことを示す文章です! 幸先がほんとにいいなあ!!

▽しかし、ハジメとはだいたい離れてしまったようだ……だが蓮がいるなら別に良いか

と考える。

……今更ですけどほもちゃんもクソデカ感情をお持ちのようですねえ……まあ、いいでしょう（オスシフオース）

「うっ……………、ここは……………？はっ!?保井さん!!お怪我は!!?」

＜蓮が目覚めた。この水らしき物のお蔭で自分たちが無事なことを告げる

「そうですか……………それよりも……………やはり檜山を殺しておくべきでした……………」
うーん、この殺意の高さよ……………

＜私が止めたことだから蓮は気にしなくていいことを告げる

「……………分かりました……………一先ず……………この先はどうしましょう?僕たちと一緒に奈落に落ちてしまったハジメさんと合流しますか?」

こここの選択肢は『そうするべき』を選びましょう

＜そうするべきだ。こんな場所で孤立しているのは不味いと蓮に伝えた。

「ですね……………所で、この水……………？でしようか?これ、どうします?」

さて、ここで『神水』を入手出来るのですが、何とビツクリ。このパターンを引いたご褒美として、この『神水』をほぼ無限に採取することが出来ます!

……………まあ、とは言っても一度に持てる数と回数が限られているので、無くなった際に

くれば無限に採取できるという仕組みです。

という訳で今持てる限界の回数である5回分を持っていく事にしましょう。……水筒だからもつと入るのでは？という野暮な突っ込みはNG

▽ここから『神水』が流れている……『水筒』の中身を破棄して代わりに『神水』を詰めますか？

『はい』を選びます

▽『神水』を汲んだ。最大で5回使えるようだ。これ以上は入れられないようだ……

▽あなたは『神水』入りの水筒』を手に入れた！

はい、では今日はここまで

次回は「オルクス大迷宮」の攻略と例のヒロインとの邂逅です。

ご視聴ありがとうございました。